

研究課題番号	5-1902
研究課題名	底生生物に対する曝露経路と生物利用性を考慮した包括的な底質リスク評価手法の構築
研究実施期間	令和元年度～令和3年度
研究機関名	東京大学
研究代表者名	中島 典之

## 1. 委員の指摘及び提言概要

底生生物の曝露とリスクに関する包括的な研究であり、重要な知見と基礎データが得られている。今後、法改正やガイダンスの作成に向けて、環境政策への反映が期待できる。わが国の底質に適用するための平衡分配法に関する知見を得られた意義は大きく、生態リスク評価や化審法での活用が期待される。更に、リスク評価には間隙水の遊離態濃度が重要であることが明らかにされた。これは今後の底質試験の開発・評価にあたって有用な知見であるが、有効性を確認するためには、曝露法や供試生物の生活様式の影響、経時変化など、さらなる知見が必要である。今後、生物の種間の感受性差、底質そのものの多様さを考慮したリスク評価と底質環境のあり方の研究および行政での利用を検討していただきたい。

## 2. 採点結果

評価ランク：A